



Risk Flash No.54 (Vol.2 No.40)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
 発行責任者：リスク研究センター長 久保英也
 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1
 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189
 e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp
 Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- 不確実性の視点(1)：「想定外」の事象を考える・・・Page 1
- 今週の論文紹介：政府紙幣の本質について—中央銀行券との比較を中心に—・・・Page 2
- 教員紹介：鈴木正信・リスク研究センター通信・・・Page 3

今回より3週にわたり、シリーズで「不確実性の視点」をお送りします。この記事は、『日本経済新聞』の「やさしい経済学」欄に1/24から8回にわたり掲載された本学酒井泰弘名誉教授の「危機・先人に学ぶ フランク・ナイト」の記事をもとに書き下ろされたものです。

不確実性の視点(1)

「想定外」の事象を考える

さかいやすひろ
 滋賀大名誉教授 酒井泰弘

リスク分析40年、経済学研究50年、雑学勉強60年——これが我が学者人生の総括とも言えるものです。この期間に尋常ならざる事件や「想定外」の事象がいろいろ発生しました。2011年3月11日に発生の東日本大震災は永遠に記憶に残る歴史的な事象でしょう。大地震や大津波に加えて、原発事故をも含めた「三重の苦難」が瑞穂の国を襲ったのです。

今から考えると真に不思議なことですが、原発は絶対安全だという「安全神話」が広く長く信じられてきました。三陸沖でマグニチュード9の地震が生じたり、高さ15m以上の津波が海岸部を襲ったり、メルトダウンした原発が大量の放射能を大気に排出するようなことは、「想定外の事象」として軽視ないし無視されてきたのです。このことのある意味では、「日本は絶対に負けない、神風が吹くのだから」という戦前の「神風神話」を想起させるものでしょう。ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英氏はこう述べておられます。

「想定外」というのは、彼らの設計の目標外であったというだけのことですよ。今回の原発事故は、科学者から見たら当然考えられる範囲です。ああいう言葉使いは問題だと思いますね。コスト面から考えた設計目標を超えていたというべきです——。

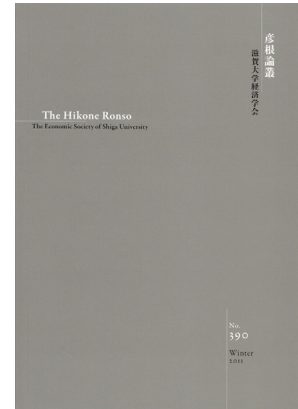
益川氏の意見は正論ですが、残念なことに、これまでの学界では原発のリスク分析が低調であったことは否定できません。だが経済学の歴史を紐解くと、「想定外」の事象をあらかじめ想定し、分析対象とする気宇壮大な学者が新大陸に存在しました。その人の名は、シカゴ大学の元老・フランク・ナイト(1885~1972年)と言います。

実は、『日本経済新聞』の「やさしい経済学」欄では、年末から新年にかけて、「危機・先人に学ぶ」ことの必要性が説かれています。私も論者の一人としてナイトの不確実性理論を展開する機会が与えられました。こうして「リスクフラッシュ」に3回に分けて大要を紹介できますことは、まさしく「想定外」の僥倖と言うべきでしょう。

今週の論文紹介

政府紙幣の本質について —中央銀行券との比較を中心に—

著者：ファイナンス学科教授 おぐりせいじ 小栗誠治
収録：彦根論叢 No. 390 2011 年冬号



概要：わが国で唯一の発券銀行である日本銀行は、2011年3月末現在、80兆9,230億円の銀行券を発行しています。発行した銀行券は日本銀行の債務として認識され、貸借対照表上の負債に計上されています。銀行券はなぜこのように負債に計上されるのか、すなわち銀行券は中央銀行にとって債務か否かという問題は、通常ほとんど意識することがないかあるいは見落としがちですが、そこには中央銀行の本質に迫る問題が潜んでいるのです。

一方、長期不況やデフレへの対応という観点から政府による政府紙幣の発行について政府や識者の間で議論が行われています。とくに2003年4月にスティグリッツが日本に対し政府紙幣発行の提言を行ったことは大きな注目を集めました。

政府紙幣と銀行券は原理的に一体どこが違うのでしょうか。政府紙幣は、同じ通貨であっても、①発行が「信用（債権・債務）関係」を通じたものか否か、②発行が「外生的」か「内生的」か、③発行が「行政行為」か「ビジネス行為」かといった点において、中央銀行券とは全く質が異なるのです。政府紙幣の発行は、信用関係の中で生成、消滅する信用通貨の基本原則を破るものであり、歴史を大きく元に戻すものといえます。政府紙幣について根本的な検討を加えることは、銀行券の本質を解明することにつながります。歴史を振り返れば、通貨の発行を国家の手から離し、中央銀行という制度を形成してきたことが一番の根幹のところであり、そうした教訓を忘れてはなりません。

近年の金融のダイナミックな動向を深く理解するためには、改めてマネーの本質に立ち戻ることが不可欠です。本稿は、そうした試みの1つとして、債権・債務という「信用の需給関係」の枠組みの中で、中央銀行券と比較しつつ、政府紙幣の本質を検討したものです。

著者のつぶやき

金融経済を巡る環境が大きく変化し、中央銀行の政策も伝統的な政策に加え、今日、様々な非伝統的な政策が実施されるに至っています。一部には、非伝統的政策もヘリコプター・マネーも通貨の供給サイド如何で何でも可能であるかのような幻想が存在するように思えます。中央銀行には歴史に沿って育ってきた正統的な政策手段というのがあり、その基準は「市場性の尊重」ということにあります。

セントラル・バンキング論についても、改めて中央銀行の本質に立ち戻り、それを踏まえた形の再構築を図ることが喫緊の課題となっています。

教員紹介 「鈴木正信」

私の専門は歴史学（日本古代史）です。特に古代豪族の系図を研究しています。系図というと、先祖から自分の世代に至る血縁関係を記したものをイメージする方が多いのではないのでしょうか。しかし、古代豪族の系図は神話に登場する神々や天皇家の祖先と結びついており、フィクションが随所に含まれています。それは自分たちが古くから天皇家に仕えてきたことを示す正統性の主張であり、極めて政治的・現実的な意味を持っていたのです。こうした系図を読み解くことによって、その豪族がいつの頃から天皇家と関わりを持ち、どのように勢力を伸ばしていったのかを知ることができます。古代史分野での系図研究は、これまであまり盛んではありませんでした。古代豪族の実態や古代国家形成の新たな一面を解明する上で、まだまだ深化の余地が残されています。



一方、歴史学と情報学の協業にも取り組んでいます。現在、陵水学術後援会学術調査・研究助成を受け、滋賀県の遺跡・史跡を紹介するeラーニング教材（パソコンを利用した自習用教材）を開発しています。また、私が担当している教養教育科目「日本の歴史」では、講義を収録・編集して履修学生に配信しています。学生は自宅や大学のPCルームで、聞き逃したところを確認したり、定期試験前の復習に役立てたりしています。講義終了後のアンケートでは「好きな時間に学習できてよかった」、「分からないところを繰り返し聞くことができ、理解が深まった」などの声が多く寄せられ、約80%の学生が「eラーニング形式での講義をまた受講したい」と回答しました。対面講義が大切なのは言うまでもありませんが、並行してICT（Information and Communication Technology:情報通信技術）を活用した学習を導入することで、より多くの学生に古代史の面白さ・奥深さを知ってもらいたいと考えています。

すずきまさのぶ
経済学部特任准教授 鈴木正信

リスク研究センター通信

有馬敏則教授の最終講義が行われました。

2011年10月24日に改修を終えた真新しい大合併講義室において有馬敏則教授の最終講義が開催されました。有馬先生は1973年4月に滋賀大学経済学部の助手として採用され、その後40年にわたり教鞭をとってこられました。今回は「金融論研究45年を振り返って」と題し、先生の学生時代から現在までの研究内容や数多くのエピソードなどを含め約1時間30分の講義となりました。シニョリッジ（通貨発行特権）やデリバティブの研究で先鞭をつけるなどアグレッシブな研究が印象的でした。



また、研究だけではなく、滋賀大学大学院修士課程の「グローバルファイナンス専攻」や「博士後期課程」の開設にご尽力されたことなど先生の功績の大きさをうかがわせました。会場には400名を超える学生や教員などが集まり、全員が熱心に聴講していました。

くぼひでや
リスク研究センター長 久保英也

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況があった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、金秉基、久保英也、
澤木聖子、得田雅章、弘中史子、宮西賢次

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局 (Office Hours:月一金 10:00-17:00)
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>